

Market Flash

発表日: 2019年4月8日(月)

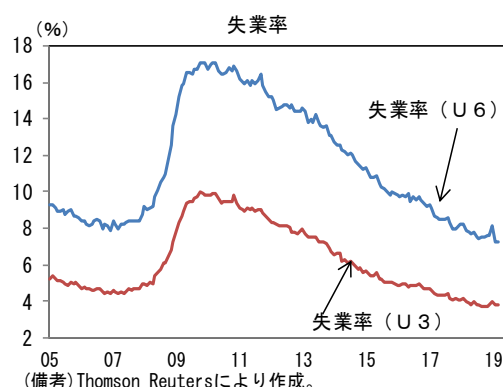
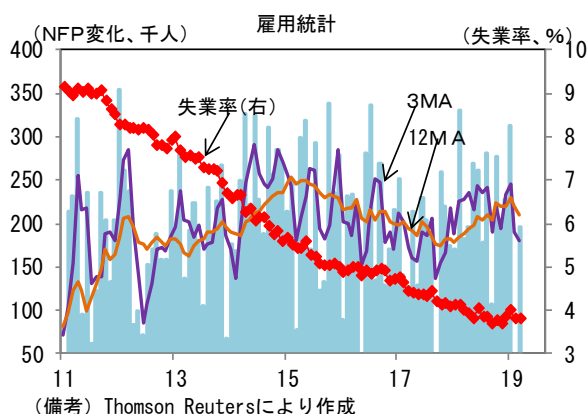
米経済 現在のところ異常なし ～景気後退懸念は要経過観察～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4521)

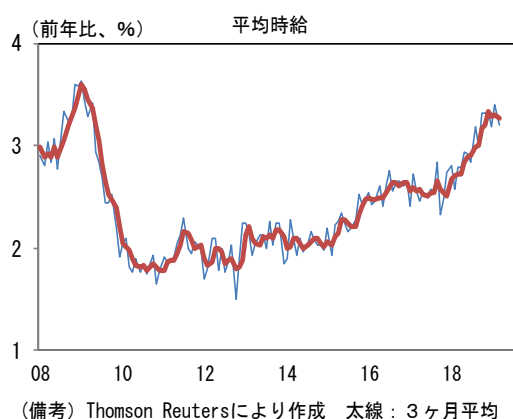
- ・ 日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き 12 ヶ月は 23000 近傍で推移しよう。
- ・ USD/JPY は米利上げ打ち止めが視野に入中、先行き 12 ヶ月で 105 へと下落しよう。
- ・ 日銀は現在の YCC を 2020 年春頃まで維持するだろう。
- ・ FED は利上げを停止し、2019 年は様子見を続けるだろう。

< #雇用統計 #堅調 #総賃金拡大 #利下げ織り込み >

- ・ **3月米雇用統計**によるとNFPは前月比+19.6万人と市場予想を小幅に上回り、2月の落ち込みからリバウンド。3ヶ月平均では+18.0万人と巡航速度に回帰し、2月の弱さが天候要因と季節調整の不完全さに起因していたことを裏付けた。3月単月の数値は6ヶ月平均(+20.7万人)、12ヶ月平均(+20.9万人)を小幅に下回っているとはいえ、失業率を低下させるには十分なペースである。雇用の関連統計をみても、新規失業保険申請件数の20万件れが近づくなか、求人件数が著しく増加するなど強いものが目立つ。これらに鑑みると、雇用の量的回復ペースは順調と判断される。
- ・ 失業率は3.8%で不変。失業者数が減少すると同時に就業者数も小幅ながら減少(労働参加率低下)したため、好内容とは言えないが、それでもU6失業率が今次サイクルの最低水準を維持するなど、全体としてみれば改善傾向にある。失業者の内訳で自発的離職者が増加傾向にあることも考慮しておきたい。



- ・注目の平均時給は前月比+0.1%、前年比+3.2%（小数点2桁では前月比+0.14%、前年比+3.20%）と予想比やや弱めも、2月の数字（前年比+3.4%）が強めに出ていたことを踏まえると、弱い印象は受けない。平均時給はNFPが弱めにでると高めに算出されるクセがあり、2月はその影響があったとみられる。労働需給逼迫を背景に平均時給は均してみれば、緩やかな加速基調にあると判断される。名目総賃金（就業者数×平均時給×労働時間）をみても、前月比+0.6%、前年比+5.2%と安定的に年率5%のトレンドにある。このことは、企業が人件費増加に寛容であることを示している。
- ・このように3月の雇用統計は米経済の堅調な姿を映し出し、逆イールド発生が喚起した景気後退懸念を和らげた。現在のところ近い将来のリセッション到来を強く示唆するサインはでていない。しかしながら、FF金利先物が利下げを織り込むなど、債券市場参加者の景気見通しが慎重化していることは事実。こうした見通しが金融市場の混乱を通じて、自己実現的に景気後退を招く恐れはある。



【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は欧米株高に追隨して高寄り後、もみ合い（11:00）。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は上昇。米中通商協議の進展が期待されるなか、堅調な雇用統計を受けて買い優勢。WTI原油は63.08ドル（+0.98ドル）。
- ・前日のG10通貨はUSDが全面高も変化率は最弱のAUDに対しても0.3%程度と小幅。USD/JPYは雇用統計発表前後に上下するも111後半のレンジ内で推移。他方、EUR/USDは小幅に水準を切り下げた。
- ・前日の米10年金利は2.595%（▲2.0bp）で引け。雇用統計の平均時給が予想比下振れたことで金利低下。2.5%の節目を割れた。カーブはブルフラット。欧州債市場（10年）はドイツ（+0.004%、+1.1bp）が小幅に金利上昇となった反面、フランス、イタリア、スペインは金利低下。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。